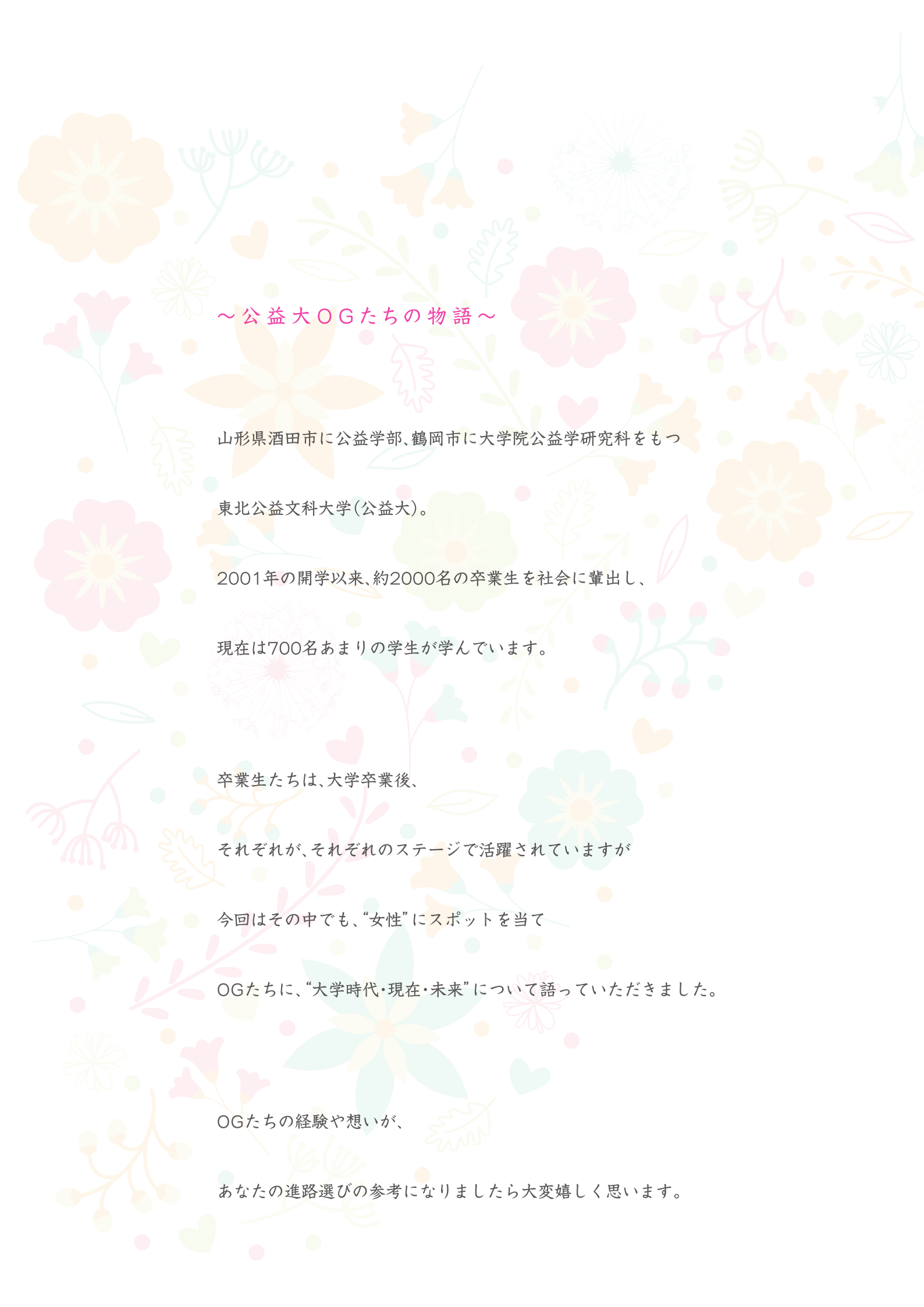




～公益大OGたちの物語～



東北公益文科大学
Tohoku University of Community Service and Training



～公益大OGたちの物語～

山形県酒田市に公益学部、鶴岡市に大学院公益学研究科をもつ

東北公益文科大学(公益大)。

2001年の開学以来、約2000名の卒業生を社会に輩出し、

現在は700名あまりの学生が学んでいます。

卒業生たちは、大学卒業後、

それぞれが、それぞれのステージで活躍されていますが

今回はその中でも、“女性”にスポットを当て

OGたちに、“大学時代・現在・未来”について語っていただきました。

OGたちの経験や想いが、

あなたの進路選びの参考になりましたら大変嬉しく思います。

民間企業で活躍する卒業生たち

中里 春佳（なかざと・はるか）さん

（2009年 学部卒業） 酒田市立酒田中央高等学校出身

●株式会社荘内銀行勤務

失敗や成功の結果だけにとらわれず、
やってみようと思ったことは挑戦してほしい。



Q 1：公益大での4年間をどのように過ごしましたか？

学生時代は社会系（現在の地域経営系地域福祉コースにほぼ相当）に所属。1、2年次は国内外の福祉への取り組みや社会保障制度に関する授業を主に学びました。3年次以降は、他の系の授業も積極的に受講。環境問題や異文化理解、世界の政治経済など、ジャンルにとらわれずさまざまな分野を学修したのを覚えています。

Q 2：自分の進路は、いつごろ、どのような理由で決めましたか？

漠然と「人の役に立ちたい」「誰かの力になりたい」という思いがありました。だからこそ社会系を選択し社会保障や福祉制度、異文化理解などを学ぼうと思いました。「世の中にはどんな人がいて、どんな環境で生活し、どんなことで悩んでいるのか」「悩んだり困っている人に手を差し伸べる活動にはどんなものがあるのか」。そうした事を学びながら自分なりに強く感じていた事は「どんなにやりたい、実現したいという思いが強くて、現実的には資金がなければ成り立たないことも多く、必ずどこかでお金は関わってくる」ということでした。「一人でも多くの人が夢を実現し、より良い人生を送ることが出来るようサポートしたい」「実現のためにまず、重要なエネルギー源のひとつであるお金を取り扱う仕事に就きたい」という思いから銀行を目指そうと思いました。

Q 3：社会に出てからのご経験と現在のお仕事を教えてください。

就職後の約3年間は、来店されるお客様の手続きをお預かりしたり相談を受ける窓口業務を担当しました。その後は渉外担当者として、お店の外に出て地域のお客様を訪問する営業の仕事に従事。主に個人のお客様を担当し、大切な資産についての相談などをお聞きし、お客様一人ひとりのニーズに合った金融商品をご提案させていただいています。大切な資産を活用しようと思った時に荘内銀行を選んでいたこと、私の話に耳を傾けていただいたこと、あなたに相談して良かったとお客様から感謝の言葉をいただいたときは本当に嬉しく、月並みですが一番のやりがいを感じます。

Q 4：公益大で学んだこと、経験したことで社会に出てから役立ったことを教えてください。

公益学は一言では言い表せないほど多岐に渡ります。学生時代は、様々な分野の授業を受け、中国での語学短期留学も2度経験。自分には出来ない、関係ないと思わずにチャレンジすることで自分の世界がいかに限定的だったか気付かされましたし、視野を広げる大切さを学びました。一つの方角だけでなくなるべく多くの方向から物事をとらえようとする力がつき、現在の仕事に役立っています。

Q 5：将来の夢は何ですか？

銀行業は税制や社会制度、経済に関することなど幅広い知識が求められますし、幅広い業界の方、たくさんの人と関わります。まだまだ自分自身至らない点も多く、悔しい思いをすることもしばしばです。しかし社会人である以上、今分らないことは全てすぐに覚えなければいけないことだと思っています。幅広い知識を身に付け、恐れずにたくさん経験をし、成長し続ける銀行員を目指しています。

Q 6：後輩に対するメッセージをお願いします。

私自身学生時代に社会人の先輩や大人達に言われたことですが、大学の4年間は何かにチャレンジする機会がたくさんあります。失敗や成功の結果だけにとらわれずやってみようと思ったことはなるべく挑戦してほしいです。その時の経験は必ず将来の糧になります。たくさんのことを学び、たくさん遊んで濃厚な4年間を過ごしてください。



ここから先は、

ぜひOGパンフレットを実際に手にとって

ご覧ください！

～公益大OGたちの物語～